

タイトル「**2022年度スポーツ科学部(公開用)**」、フォルダ「**スポーツ科学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	SSCS3618		
科目名	コーチング演習Ⅳ		
担当教員	本道 慎吾		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	火 4		
講義室	1007	単位区分	選
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門応用		
科目小分類	専門総合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード 学修のゴールを示すディプロマポリシー（D P）との関連 DP3－G〔状況把握力・判断力〕 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP3－H〔論理的思考力・批判的思考力〕 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4－F〔探究力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4－I〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP5－J〔創造的挑戦力・達成力〕 コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 ■ C Rコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 G1 状況把握（40％） F2 課題解決（20％） H1 論理的思考（20％） I1 理解分析と読解（5％） J1 継続的学修基盤（5％） J2 創造的思考（10％）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期～4 定着期		
科目概要・キーワード	本授業では専門種目におけるコーチング理論を中心に、コーチとして指導現場で活動するための応用的な考え方やパフォーマンス向上のための個人やチームを対象としたマネジメントを含むコーチング技術を習得するために、実際の指導現場での課題を想定した実践的演習により授業を行います。授業形式は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れます。 ■キーワード コーチング能力、コーチング技術、コーチング実践		
授業の趣旨	■副題 多様化するコーチングの現場において、コーチングに関する実践的なメカニズムや課題解決方法について明らかにします。 ■授業の目的		

	コーチングを取り巻く環境について考察し、実践を通して実際の指導現場におけるコーチングに関する課題を発見し、その解決策を考察することを目的とします。 ■授業のポイント コーチングについてこれまでの実践や研究成果によって多くの情報が明らかにされ、コーチング理論や知識として提示されてきました。それらの情報をもとに、指導者は競技や個人の特性、目的に応じてそれらの情報を取捨選択し、コーチング対象者に最も適したコーチング方法を構築する必要があります。そこでコーチとしての指導現場を想定し、より実践的な考え方や指導方法を演習形式で学修していくことになります。	
総合到達目標	■コーチングの指導現場における活動のために、実践的な課題設定を行い、その解決策を運用して実践する方法を修得できる。 ・実践現場におけるコーチングの課題について適切に予測することができる。（第1回・第2回・第7回・第8回） ・設定された課題に対して適切な解決策を調べることができる。（第3回～第6回） ・コーチングの実践を通して、知識の実践的な運用を感じることができる。（第9回～第13回） ・実践結果をもとに手段や方法論について討論することができる。（第14回・第15回） ・コーチングを行うための具体的な手段や方法論について実践できるように準備することができる。（第2回～第14回）	
成績評価方法	■レポート2回（40％）：適応ルーブリック H1・I1・J1・J2 （評価の観点）授業の内容を踏まえて、自身の考えを理論立てて示すことができるかどうかを評価します。 （フィードバック方法）授業時間中に解説を行います。 ■授業参加度（60％）：適応ルーブリック G1・F2 （評価の観点）授業内で実施する授業シート、及びリアクションシートの内容により授業内容を把握し、建設的な議論ができているかどうか評価します。 （フィードバック方法）授業時間中に解説を行います。	
履修条件	コーチング学研究法演習(SSCS2317)及びコーチング演習Ⅰ(SSCS2326)・コーチング演習Ⅱ(SSCS2327)・コーチング演習Ⅲ(SSCS3617)を履修していることが望ましい。	
履修上の注意点	特にありません。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の進め方や評価について説明を行う。また、授業の概要やコーチング演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよびコーチング学研究法演習との関連性、学習方法を学ぶ（G1・J1）。 ③予習（120分） コーチング演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよびコーチング学研究法演習で学習した内容の復習を行う。 ④復習（120分） 自身がこれまで受けてきたコーチングについて整理しておく。
	2	①授業テーマ 実際の指導現場における課題の設定 ②授業概要 コーチング実践を行う上での指導現場に内在する課題について議論を行い（H1）、課題解決のための手段や方法について検討を行う（F2）。その後、導き出された結果から実際の現場を想定して課題設定を行う（G1・J2）。 ③予習（120分） 現在自身が取り組んでいる競技スポーツにおけるコーチング問題について1つ挙げてくる。 ④復習（120分） 授業内で設定した課題に関するキーワードを5つ程度考えておく。
	3	①授業テーマ 課題に対する科学的知見からの解決策の模索① ②授業概要 各自が設定した実際の指導現場における課題に対して、様々な科学的知見から具体的な解決策を議論する（G1・F2）。また、その解決策がどのような科学的根拠に裏付けされているのか議論を行う（H1・I1）。 ③予習（120分） コーチング演習Ⅲにおいて学習したスポーツ科学の学問領域内容の復習しておく。 ④復習（120分） 議論された内容についてA4用紙1枚程度でまとめておく。
	4	①授業テーマ 課題に対する科学的知見からの解決策の模索② ②授業概要 前回の授業で議論した具体的な解決策について、他者に説明できるようにまとめて（J2）、プレゼンテーションを行う（G1）。 ③予習（120分） 前回の授業の中でまとめられた内容について復習しておく。 ④復習（120分） 他者の発表を聞いて興味を示した点、感心した点を3つ挙げる。
	5	①授業テーマ 課題に対する科学的知見からの解決策の模索③ ②授業概要 コーチングの現場に関する研究がどのように行われているか把握する（H1・I1）。そして、どのような研究成果が発表されているのか研究論文検索を行い、資料を収集する（G1）。

	③予習（120分） コーチングに関連した学術用語を5つ以上挙げておく。 ④復習（120分） 収集した資料に番号を振り、見返しができるように目録を作成しておく。
6	①授業テーマ 課題に対する科学的知見からの解決策の模索④ ②授業概要 前回の授業で収集した資料を精査して（H1・I1）、プレゼンテーションとしてまとめ（J2）、他者に発表を行う（G1）。 ③予習（120分） 前回の授業で収集した論文の緒言を読み、まとめておく。 ④復習（120分） 他者の発表を聞いて興味・関心を持った学術論文を1つ選び、熟読する。
7	①授業テーマ コーチング実践における具体的目標設定① ②授業概要 コーチング実践を行うための指標となる項目について議論を行い（G1・F2）、その項目の妥当性について検討をして発表する（G1）。 ③予習（120分） 文部科学省のHPを参照し、「新体力テスト」について調べておく。 ④復習（120分） 今回の授業内容を振り返り、まとめておく。
8	①授業テーマ コーチング実践における具体的目標設定② ②授業概要 コーチング実践を行うための指標について、競技や個人の特性に応じた取り扱いについて検討を行い（F2・J2）、その妥当性について議論を行う（G1・I1）。その後、実際の指導現場を想定した課題に対する解決策の実践計画を立案する（H1・J2）。 ③予習（120分） キーワード「コントロールテスト」について調べておく。 ④復習（120分） 実践計画の振り返りを行い、計画実行に問題がないか精査しておく。
9	①授業テーマ 課題解決の実践① ②授業概要 実際の指導現場を想定し（G1）、課題に対する解決策を実践する（F2）。 ③予習（120分） 実践計画の内容を確認しておく。 ④復習（120分） 実際に実践した内容についてまとめて、実践計画と比較できるようにしておく。
10	①授業テーマ 課題解決の実践② ②授業概要 実際の指導現場を想定し（G1）、課題に対する解決策を実践する（F2）。 ③予習（120分） 実践計画の内容を確認しておく。 ④復習（120分） 実際に実践した内容についてまとめて、実践計画と比較できるようにしておく。
11	①授業テーマ 実践における中間報告 ②授業概要 前回の授業までの実践内容を踏まえてフィードバックを行い（F2・I1）、議論する（G1）。その後、今後の課題に対する解決策の実践計画の修正および変更を検討する（H1・J2）。 ③予習（120分） 実践計画と実施内容を比較してコメントを記載しておく。 ④復習（120分） 自身の考察や他者からの意見、アドバイスをもとに変更や修正された点について、その理由をまとめておく。
12	①授業テーマ 課題解決の実践③ ②授業概要 修正および変更された実践計画をもとに実際の指導現場を想定し（G1）、課題に対する解決策を実践する（F2）。 ③予習（120分） 実践計画の内容を確認しておく。 ④復習（120分） 実際に実践した内容についてまとめて、実践計画と比較できるようにしておく。
13	①授業テーマ 課題解決の実践④ ②授業概要 修正および変更された実践計画をもとに実際の指導現場を想定し（G1）、課題に対する解決策を実践する（F2）。 ③予習（120分） 実践計画の内容を確認しておく。 ④復習（120分） 実際に実践した内容についてまとめて、実践計画と比較できるようにしておく。
14	①授業テーマ 実践結果のフィードバック ②授業概要 前回の授業まで実践した内容に対してフィードバックを行い（F2・I1）、議論する（G1）。その後、実践結果および議論された内容について報告書としてまとめる（H1・J2）。 ③予習（120分） 実践計画と実施内容を比較してコメントを記載しておく。 ④復習（120分） 授業内で作成した報告書をもとに自身の意見や感じた点などを考察し、記入しておく。
15	①授業テーマ コーチング演習Ⅳのまとめ ②授業概要 前回の報告書をもとに全体へ発表を行い、実践結果の共有を行う（G1）。

	また、この授業を通して得られた知識や経験知について振り返り、総括を行う（H1・I1）。 ③予習（120分） 発表できるように報告書の要点を抽出しておく。 ④復習（120分） 総括された内容について振り返りを行い、まとめる。
関連科目	「コーチング演習Ⅲ SSCS3617」（3年次前期配当）および「コーチング演習Ⅴ SSCS4601」（4年次前期配当）は、本講と密接に関係します。
教科書	指定なし
参考書・参考URL	日本コーチング学会 編『コーチング学への招待』（大修館書店、2017年）
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 授業時に連絡します。
研究比率	

